

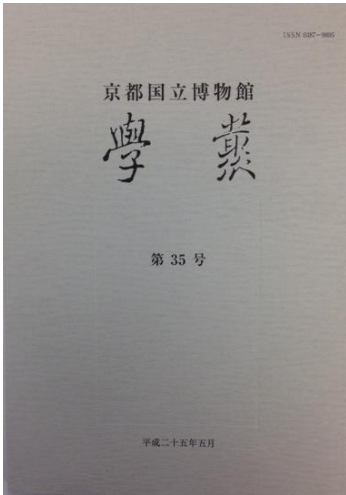
中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(1) 調査研究の成果の発信							
【年度計画】(東京国立博物館、京都国立博物館) 1) 文化財修理報告書を刊行する。 (東京国立博物館) 1) 東京国立博物館情報アーカイブを運用し、「東京国立博物館情報アーカイブ」等、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。 2) 紀要・図版目録等を刊行する。 3) 法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。 4) 研究誌『MUSEUM』を刊行する。(年6回)								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	出版企画室長 勝木言一郎					
【実績・成果】(東京国立博物館、京都国立博物館) 1) 『東京国立博物館文化財修理報告』XIVを刊行した。 (東京国立博物館) 1) (東京国立博物館情報アーカイブの詳細は処理番号2411参照)。特別展図録・特集陳列印刷物(リーフレット)14件を発行した。そのうちPDFファイル版5件を東京国立博物館ウェブサイト上に公開することによって研究情報の普及を図った。 2) 『東京国立博物館紀要』49号、『東京国立博物館図版目録 中世古文書篇』を刊行した。『東京国立博物館紀要』49号より「キーワード」を導入した。 3) 『法隆寺献納宝物特別調査概報XXXIV 聖徳太子絵伝(四幅本)2』を刊行した。 4) 研究誌『MUSEUM』643～648号を刊行した。今年度より「キーワード」を導入した。 ○特別展図録・特集陳列図録を編集した。 ○国際標準図書番号ISBN及び日本版商品識別コードJANを取得し、図書流通や図書館情報の利便性を図った。 ○出版企画委員会8回、『MUSEUM』『紀要』等編集委員会11回を開催し、博物館の出版事業の拡充を図った。								
【補足事項】(東京国立博物館) 2)・4) 『東京国立博物館紀要』『MUSEUM』にキーワード欄を設け、「キーワード」(条件検索用の関連用語)を列挙することによって、研究データベースの構築に対する便宜を図り、研究者の情報収集の支援を行うなど、研究成果の発信機能の充実に努めた。 ○以下の出版物を編集、発行した。 ・『MUSEUM』発行(6回) ・定期刊行物(4件) ・『東京国立博物館紀要』49号、『東京国立博物館文化財修理報告』XIV、『法隆寺献納宝物特別調査概報XXXIV聖徳太子絵伝(四幅本)2』、『東京国立博物館図版目録 古文書篇』 ・特別展図録・特集陳列印刷物(リーフレット)(14件) 《特別展図録》『国宝 大神社展』、『和様の書』、『東洋館リニューアルオープン記念 上海博物館 中国絵画の至宝』、『上海博物館 中国絵画の至宝 一釈文・印章編一』、『京都一洛中洛外図と障壁画の美』、『クリーブランド美術館名品展—名画でたどる日本の美』、『日本伝統工芸展60回記念 人間国宝展 生みだされた美、伝えゆくわざ』、『開山・栄西禅師800年遠忌 栄西と建仁寺』 《特集陳列図録》『描かれた風景—憧れの真景・実景への関心—』 《特別展印刷物》「支倉常長像と南蛮美術 400年前の日欧交流」 《特集陳列印刷物》「古文書に親しむ」、「縄文土器に飾られた人物と動物」、「断簡 掛軸になった絵巻」、「東京国立博物館コレクションの保存と修理」 ・その他(2件) 東京国立博物館編『東洋美術をめぐる旅 東京国立博物館 東洋館』(平凡社コロナブックス)、東京国立博物館監修『井浦新の美術探検 東京国立博物館の巻』(東京美術)								
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	21	22	23	24
『MUSEUM』発行		6回	6回	A	6	6	6	6
定期刊行物		4件	—	—	6	5	3	4
特別展図録・特集陳列印刷物等		14件	—	—	10	12	12	10
その他		2件	—	—	2	2	2	4
総合評価	S ① B C F(S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				



特別展図録『上海博物館
中国絵画の至宝』



特別展印刷物「支倉常長像
と南蛮美術 400年前の日
欧交流」

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(1) 調査研究の成果の発信								
【年度計画】 (東京国立博物館、京都国立博物館) 1) 文化財修理報告書を刊行する。 (京都国立博物館) 1) 研究紀要『学叢』を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分を順次ウェブサイトで公開する。 2) 社寺調査報告書等を刊行する。									
担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長 宮川禎一						
【実績・成果】 (東京国立博物館、京都国立博物館) 1) 『文化財保存修理所修理報告書10・11号』を刊行した。 (京都国立博物館) 1) 研究紀要『学叢』第35号を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分を順次ウェブサイトで公開した。 2) 社寺調査報告書については南山城地域調査成果の一層の検討を深めるため、次年度に刊行することとした。 ○特別展等の図録を2巻刊行した。									
【補足事項】 (京都国立博物館) 1) 『学叢』第35号で、論文2本、作品紹介2本を発表した。 ○明治古都館(特別展示館)の明治時代の建築図面に関する整理作業を終えて『重要文化財旧帝国京都博物館建築資料調査報告書』を刊行した。 ○特別展等図録(2冊) ・長年にわたる館蔵・寄託品の調査結果を盛り込み、「遊び」をテーマに作品を紹介する特別展覧「遊び」を開催し、図録を刊行した。 ・清時代の陶磁器の名品やその日本陶磁への影響について、各収蔵先での調査結果を盛り込み、特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」を開催し、図録を刊行した。									
									
『学叢』第35号									
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
定期刊行物		3件	—	—		—	—	3	3
特別展図録・特集陳列印刷物等		2件	—	—		—	—	4	5
総合評価	S A ③ C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(1) 調査研究の成果の発信							
【年度計画】 (奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) 文化財修理に関する印刷物を刊行する。 (奈良国立博物館) 1) 研究紀要『鹿園雑集』を刊行し、ウェブサイトで公開する。 2) 入場無料ゾーンを利用し、調査研究活動実績をパネル等で公開する。								
担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長 野尻 忠					
【実績・成果】 (奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) 文化財修理に関する調査研究成果は、研究紀要『鹿園雑集』内に包摂する形で刊行される見込み(26年5月)。 (奈良国立博物館) 1) 研究紀要『鹿園雑集』は、25年度内に編集作業を進めた(26年5月刊行見込み)。 2) 地下回廊の入場無料ゾーンにおいて、東京文化財研究所との共同研究による仏教美術の光学調査の成果、館蔵品の修理実績等に関するパネル展示を行った(通年)。 ○展覧会等図録6冊を刊行し、その中に収蔵品の調査研究成果の一部を収録した。								
【補足事項】 ・展覧会等図録6冊を刊行した。 『當麻寺 一極楽浄土へのあこがれー』(特別展図録) 『みほとけのかたちー仏像に会うー』(特別展図録) 『第65回正倉院展』(特別展図録) 『The65th Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』(特別展英語版図録) 『おん祭と春日信仰の美術』(特別陳列図録) 『なら仏像館 名品図録』(名品図録) ・特別展「當麻寺」にあたっては、読売新聞紙上に展示品紹介の連載を5回実施した。 ・特別展「みほとけのかたち」にあたっては、読売新聞紙上に展示品紹介の連載を3回実施した。 ・「第65回正倉院展」にあたっては、読売新聞紙上に展示品紹介の連載を5回実施した。								

展覧会図録

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
定期刊行物	0件	—	—	変化	1	1	—	1
特別展図録・特別陳列印刷物等	6冊	—	—		5	5	5	6
研究論文等発表実績	22件	—	—		22	33	29	31
総合評価	S A ③ C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(1) 調査研究の成果の発信								
【年度計画】 (奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) 文化財修理に関する印刷物を刊行する。 (九州国立博物館) 1) 研究紀要『東風西声』を刊行する。 2) 保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。									
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 今津節生						
【実績・成果】 (奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) 文化財修理に関する印刷物(「市民と共に ミュージアム I P M」報告書、「第5回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」報告書)を刊行した。 (九州国立博物館) 1) 研究紀要『東風西声』第9号を刊行した。 2) 保存修復活動の成果を反映させた教育普及事業を行った。									
【補足事項】 (九州国立博物館) 1) 研究紀要『東風西声』では、論文7本(うち当館職員5本)を掲載した。(26年3月刊行) 2) 文化財保存・I P M普及のための講演会等を開催した。 ・文化財保存交流セミナーを開催した。 ・I P M普及のための講演会を行った。 ○特別展図録・特集陳列等図録11冊を刊行した。 (特別展図録5冊、トピック展示図録6冊)									
									
トピック展示「山の神々」図録									
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
定期刊行物		1件	—	—	経年変化	1	1	1	1
特別展図録・特集陳列印刷物等		11冊	—	—		7	11	10	9
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施								
【年度計画】 (4館共通) 1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。 (19人程度：東京6、京都3、奈良6、九州4) 2) 当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。 (31人程度：東京6、京都15、奈良6、九州4) 3) 国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。 (東京国立博物館) 1) 学術交流協定を締結している博物館及び東アジア・欧米主要館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。 2) アジア国立博物館協会 (ANMA) 理事会、ICOM等の国際会議へ参加する。									
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	国際交流室長 鬼頭智美						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 韓国、中国、アメリカ、イギリス、より21名の研究者を招聘し、学術交流に寄与した。 2) 韓国、中国、アメリカ、イギリス、スペイン、ドイツ、イタリア等に延べ41名の研究員を派遣し、学術交流及び展覧会の準備・調査を行った。 3) 上海博物館展関連事業として同館書画部副主任研究員李維琨氏を講師として講演会を開催した。 (東京国立博物館) 1) 韓国国立中央博物館及び中国・上海博物館、故宫博物院との学術交流協定に基づき、研究員の交流を行うとともに、海外での作品調査や国際会議出席などのため海外に研究員を派遣、調査研究及び海外館とのネットワーク構築や交流事業の推進を図った。 2) 第4回アジア国立博物館協会 (ANMA) 理事会・定期大会に出席、アジア13カ国の国立博物館代表者らと交流、情報交換を行い、ネットワークを強化した。(25年10月8日～9日)									
【補足事項】 (4館共通) 1) 上記研究員派遣の人数については、当館予算で主体的に派遣した人数の延べ人数を示す。科学研究費及び外部の助成金等による派遣人数を含む人数は、派遣：71人であった。 ※実績が目標値を大幅に上回っているのは、当初予算で実施可能な人数を目標値に設定しているため。 (東京国立博物館) 1) 研究員の海外交流の成果を館内で共有するため、学術交流発表会を実施した。 ・韓国国立中央博物館との学術交流発表会 (25年8月20日) 同館学芸研究室保存科学部 学芸員 千 周鉉 氏 館内20名参加 ・同 (25年11月19日) 同館学芸研究室美術部学芸員 申 紹然 氏 館内15名参加 ・同 (25年12月21日) 25年度派遣の井出浩正研究員、金井裕子研究員 館内25名参加 2) ・ANMA理事会・定期大会は、ベトナム・ハノイのベトナム国立歴史博物館で開催され、「博物館による社会的変化への貢献」をテーマに行われた定期大会では、「文化遺産保護と発展、活用における東京国立博物館の実践：文化財レスキュー活動と東洋館のリニューアルオープン」と題した発表を行った。また、同時開催された「アジア—文化の彩り」展では日本文化紹介展示が設けられ、日本文化理解に寄与した。 ・ICOMブラジル大会に館長以下館員5名が参加、各種委員会に積極的に出席した。									
 2013 ANMA ハノイ大会 (於：ベトナム国立歴史博物館)  韓国国立中央博物館との 学術交流発表会									
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	21	22	23	24	
海外からの研究者招聘		21人	6人程度	S	経年 変化	26	15	16	11人
海外への研究者派遣		41人	6人程度	S		16	54	48	34人
国際シンポジウム開催数		—	—	—		1	—	1	—
国際シンポジウム参加者数		—	—	—		170	—	323	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施								
【年度計画】 (4館共通) 1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。 (19人程度：東京6、京都3、奈良6、九州4) 2) 当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。 (31人程度：東京6、京都15、奈良6、九州4) 3) 国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。 (京都国立博物館) 1) 諸外国における国際会議、研究集会等へ積極的に参加し、研究交流及び研修を行う。 2) 外国人研究員・研修員の受け入れを行い、海外の研究者との交流を促進する。									
担当部課	総務課 学芸部企画室	事業責任者	課長 室長	植田義雄 宮川禎一					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 25年度実績はなし。 2) 研究交流並びに研修のため研究員を海外へ19人派遣した。 3) 25年度実績はなし。 (京都国立博物館) 1) 研究交流並びに研修のため研究員を海外へ19人派遣した。そのうち国際シンポジウムへ4人を派遣した。 2) 外国人客員研究員の招聘実績はなし。25年度は国際シンポジウムを実施しなかったため。また、ほかに招聘を要する事業もなかった。									
【補足事項】 ・研究員を作品調査、科研費調査及び国際会議出席などで派遣した。 ※今年度招聘事例はないが、目標値は前年度実績をもとに設定している。									
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
海外からの研究者招聘		0人	3人程度	F	経年 変化	29	7	21	3
海外への研究者派遣		19人	15人程度	A		13	27	25	15
国際シンポジウム開催数		0回	—	—		1	1	1	1
国際シンポジウム参加者数		0人	—	—		288	213	150	209
総合評価	S A ③ C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					ほぼ順調				

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施								
【年度計画】 (4館共通) 1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。 (19人程度：東京6、京都3、奈良6、九州4) 2) 当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。 (31人程度：東京6、京都15、奈良6、九州4) 3) 国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。 (奈良国立博物館) 1) 学術交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。									
担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長 野尻忠						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 中国・韓国の研究者計9名を招聘し、今後の共同調査や展示活動等に向けた実りある情報交換を実施した。 2) 職員延べ8名を諸外国に派遣し、文化財に関する情報収集や現地研究者との交流を図った。 3) 26年2月27日に東アジア古代青銅器に関する国際研究集会を開催し、李眞旼氏（韓国国立慶州博物館）が「韓国の青銅器時代の文化と慶州―集落遺跡を中心に―」のタイトルで口頭報告した。 (奈良国立博物館) 1) 中国上海博物館、中国河南博物院、韓国国立慶州博物館との間で、学術交流協定に基づいて研究員等を派遣し、また招聘して、今後の共同調査や展覧会開催に向けて情報を交換した。									
【補足事項】（奈良国立博物館） 1) 学術交流協定に基づき、以下の交流を行った。 - 中国上海博物館との学術交流協定に基づき、同館から職員3名を10日間招聘、当館から職員3名を10日間派遣した。 - 中国河南博物院との学術交流協定に基づき、同館から職員2名を1ヵ月間招聘、当館から職員2名を約1ヵ月間派遣した。 - 韓国国立慶州博物館との学術交流協定に基づき、同館から研究員2名を各1ヵ月間招聘、当館から職員1名を1ヵ月間派遣した。 ○その他以下の交流を行った。 25年5月21日、上海博物館の職員5名の来訪を受け入れ、情報システム等について意見交換した。 25年8月2日、キリバス共和国の文化財専門職員等2名を受け入れ、当館の展示内容等について講義した。 25年8月8日、韓国国立公州博物館の館長及び研究者の来訪を受け、博物館の状況や展示方法などについて意見交換した。 25年9月3日、国立台南芸術大学博物館研究所が募集した台湾の博物館関係者約20名を受け入れ、博物館の運営・経営方針について1時間30分にわたり講義した。 25年11月25日、バングラデシュの博物館関係者3名を受け入れ、当館の概要・仏教美術の展示・免震展示ケース・照明等について講義した。 25年11月29日、アフガニスタンのカーブル博物館館長ほかの来訪を受け、当館の概要を講義し、文化財保存修理所の見学を実施した。 26年1月25日～28日、当館研究員2名を韓国に派遣し、遠願寺址・浄惠寺址他を調査した。 26年2月27日の国際研究集会には、館外の研究者を含む30名が参加し、活発な議論が展開された。									
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	経年 変化	21	22	23	24
海外からの研究者招聘		9人	6人程度	S		29	9	20	7
海外への研究者派遣		8人	6人程度	A		30	14	19	17
国際シンポジウム開催数		—	—	—		1	1	—	—
国際シンポジウム参加者数		—	—	—		197	150	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



バングラデシュ博物館関係者への講義

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化																																																	
事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施																																																	
【年度計画】 (4館共通) 1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。 (19人程度：東京6、京都3、奈良6、九州4) 2) 当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。 (31人程度：東京6、京都15、奈良6、九州4) 3) 国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。 (九州国立博物館) 1) 国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに学術文化交流協定を締結している海外博物館等との交流を活発に行う。 2) 海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。																																																		
担当部課	交流課 総務課 学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 篠崎孝司 課長 阿部 勝 課長 今津節生																																															
【実績・成果】 (4館共通) 1) タイ、ベトナム等、海外の博物館・美術館等の研究者を16人招聘した。 2) 当機構職員をタイ、ベトナム等、海外の博物館・美術館等に研究交流及び文化庁主催海外展「日本文化展」等のため、87人派遣した。 3) 国際シンポジウム「ベトナムに恋して」を開催した。(25年10月5日開催、207人参加) (九州国立博物館) 1) 国際交流活動推進へ向けての基盤を整備し、海外博物館等との交流を実施した。(韓国国立公州博物館) 2) 海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、専門的な講演を行った。(トルコ・トプカプ宮殿美術館)																																																		
【補足事項】 (4館共通) 1) タイ王国文化省芸術局との学術文化交流協定に基づき、研究者等9名を招聘。共同研究の内容・手法等について具体的な協議を行うとともに、被災地を含む各地の博物館等の視察を行った。(25年6月4日～6月14日) 2) 文化庁主催海外展「日本文化展」及び特別展に係る協議・調査等のため海外への研究者派遣数が増加した。 (九州国立博物館) 1) 韓国国立公州博物館との学術文化交流協定に基づき、同博物館より研究者等3名を招聘し、当館をはじめとする各地の博物館・資料館で文化財調査を実施した。(25年7月29日～8月11日) 2) 平成25年度博物館・美術館相互交流事業の一環として、トルコ・トプカプ宮殿美術館より主任学芸員1名を招聘し、各地の博物館等の視察及び当館で職員等を対象とした講演会を実施した。(25年10月7日～10月13日)																																																		
【定量的評価】項目 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>25年度実績</th><th>目標値</th><th>評価</th><th rowspan="5">経年 変化</th><th>21</th><th>22</th><th>23</th><th>24</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>海外からの研究者招聘</td><td>16人</td><td>4人程度</td><td>S</td><td rowspan="4">経年 変化</td><td>37</td><td>9</td><td>21</td><td>3</td></tr> <tr> <td>海外への研究者派遣</td><td>87人</td><td>4人程度</td><td>S</td><td>46</td><td>77</td><td>56</td><td>60</td></tr> <tr> <td>国際シンポジウム開催数</td><td>1回</td><td>—</td><td>—</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr> <td>国際シンポジウム参加者数</td><td>207人</td><td>—</td><td>—</td><td>300</td><td>117</td><td>263</td><td>450</td></tr> </tbody> </table>  国際シンポジウム 「ベトナムに恋して」									項目	25年度実績	目標値	評価	経年 変化	21	22	23	24	海外からの研究者招聘	16人	4人程度	S	経年 変化	37	9	21	3	海外への研究者派遣	87人	4人程度	S	46	77	56	60	国際シンポジウム開催数	1回	—	—	1	1	1	2	国際シンポジウム参加者数	207人	—	—	300	117	263	450
項目	25年度実績	目標値	評価	経年 変化	21	22	23	24																																										
海外からの研究者招聘	16人	4人程度	S		経年 変化	37	9	21	3																																									
海外への研究者派遣	87人	4人程度	S			46	77	56	60																																									
国際シンポジウム開催数	1回	—	—			1	1	1	2																																									
国際シンポジウム参加者数	207人	—	—			300	117	263	450																																									
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)																																																	
【中期計画記載事項】 文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。																																																		
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調																																														

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(3) 保存修理事業者への研修プログラム								
【年度計画】 (4館共通) 1) 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。									
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長 神庭信幸						
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・特定非営利活動法人文化財保存支援機構(NPO-JCP)が主催する専門家セミナーに当館が共催し、当館を会場として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ」(25年8月19日～29日の10日間)を開催した。当館は講師・プログラムの選定、及びセミナー会場・修理施設・展示施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容は、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。受講生は全国から37名が参加した。 ・レベルⅠの応用編として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅡ 陸前高田学校」(25年7月29日～8月3日、5日の7日間)を別会場において開催し、受講生は11名であった。 ・大学院生のインターンシップを8名受け入れ、当館の臨床保存と包括的保存について研修を実施した(26年3月3日～14日)。									
【補足事項】 ・文化財保存修復学会第34回大会(25年7月20日、仙台)において「被災文化財等救援活動における人材養成『陸前高田学校』(文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅡ)ー」を発表した。 ・文化財保存修復学会第34回大会(25年7月20日、仙台)において「被災文化財等救援活動における保存修理ー東京国立博物館修理室での油彩画等保存修理活動ー」を発表した。 ・文化財保存修復学会第34回大会(25年7月20日、仙台)において「被災文化財等救援活動における資料保存処理トリアージの重要性」を発表した。									
 「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅡ 陸前高田学校」の講義風景									
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	経年 変 化	21	22	23	24
保存修理事業者を対象とした研修会									
開催回数		2回	—	—		2	2	2	2
参加者数		48人	—	—		60	49	37	47
インターン受入れ		8人	—	—	2	3	4	4	
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(3)保存修理事業者への研修プログラム								
【年度計画】 (4館共通) 1) 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。									
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 浅湫 毅						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。また2ヵ月に1回修理技術者と当館との定例会議を開催した。 ・ 当館開催の特別展覧会において、修理技術者に対する定例の研修会(熟覧)を実施した。(計3回・140人) 参加者「狩野山楽・山雪」展 55人 「遊び」展 45人 「魅惑の清朝陶磁」展 40人 ・ 文化財修復に関わる大学院生(4人)のインターンシップ実習(25年8月19日～9月2日・9月9日～20日)を実施し、25年11月8日に口頭による報告会を開催し(出席者50人)、報告書を作成した。 ・ 保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を25年9月6日に実施した。(18人)									
【補足事項】 (4館共通) 1) ・ 文化財保存修理所巡回によって、修理技術者へ専門的な立場から指導・助言を行うことで、双方の見識にプラスとなった。 ・ 文化財修復に関わる大学院生をインターンシップとして受け入れ、実習を行ったことは、今後の技術者育成を考える上でも意義は大きい。 ・ 保存修復技術を専攻する大学院生に、修理現場の見学・説明などの研修を実施することで、学生の意欲や目標意識の向上を図ることができた。									
 保存修復技術を専攻する 大学院生のための研修会									
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
保存修理事業者を対象とした研修会					経 年 変 化				
開催回数		3回	—	—		4	4	4	4
参加者数		140人	—	—		155	166	160	169
インターン受入れ		4人	—	—		3	2	4	3
大学院生のための研修会参加者数		18人	—	—	—	16	13	29	
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

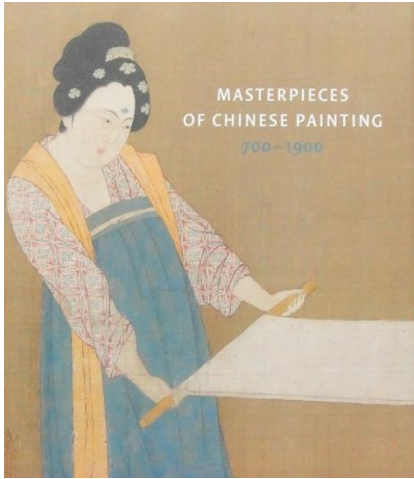
中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(3) 保存修理事業者への研修プログラム								
【年度計画】 (4館共通) 1) 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。									
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 谷口耕生						
【実績・成果】 (4館共通) 1) ○保存修理事業者を対象とした研修会(計6回・71人) ・文化財保存修理所技術者研修会を、1回実施した(26年1月14日)。(1回・41人) ・国内外の保存修復専門家による文化財保存修理所各工房での研修・視察を合計5回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。(計5回・30人) ・25年10月2日：中国・敦煌研究院及び東京文化財研究所研究員による視察・研修(3人) ・25年11月11日：ドイツ・エジプト博物館のパピルス修復技術者による視察・研修(3人) ・25年11月20日：韓国伝統文化大学校 伝統文化教育担当者による視察・研修(5人) ・25年11月29日：アフガニスタン国立博物館及びウィーン美術史美術館の学芸員・修理技術者による視察・研修(9人) ・26年3月7日：民族学資料の収集・保存・情報化に関する実践的研究：ロシア民族学博物館との国際共同研究 参加者による視察・研修(10人) ○一般向け講演会等 保存修理事業者と協力した研修会を文化財保存修理所彫刻室使用者所属工房の修理担当者による文化財保存修理所事業成果報告「雄勝法印神楽 神楽復興に生きた文化財修理のわざ」を、1回実施した(25年11月24日)。									
【補足事項】 ○保存修理事業者を対象とした研修会 ・文化財保存修理所技術者研修会 26年1月14日に文化財修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催し、彫刻室工房代表者による仏像修理に関する報告(「報恩寺 阿弥陀如来坐像の修理について」)を踏まえた討議を実施した。参加者は41人。 ○一般向け講演会等 ・文化財保存修理所事業成果報告 25年11月24日に当館講堂にて、「雄勝法印神楽 神楽復興に生きた文化財修理のわざ」を開催。東日本大震災の津波で失われた神楽面が当館文化財修理所で復元された成果について復元担当技術者及び当館研究員・地元文化財担当者が口頭発表し、併せて復元された神楽面を用いた地元保存会による神楽の実演を行った。成果報告発表者3名、保存会神楽衆11名。聴講71人(一般聴講を含む)。									
 文化財保存修理所事業成果報告 「雄勝法印神楽 神楽復興に生きた文化財修理のわざ」									
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
保存修理事業者を対象とした研修会									
開催回数		6回	—	—		1	6	7	9
参加者数		71人	—	—		—	—	97	93
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(3) 保存修理事業者への研修プログラム								
【年度計画】 (4館共通) 1) 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。									
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 今津節生						
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・保存修理事業者を対象とした研修会として「古文書保存基礎講座」等を開催した。(計6回・139人) ・インターン8名を受け入れた。 ・保存修理事業者と協力した研修会として、短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を行った。 ・文化財保存、I PM普及のための講座・研修を開催した。(計3回・215人)									
【補足事項】 ○保存修理技術者を対象とした研修会(計6回・139人) ・紙文化財の保存講座・研修(協力：国宝修理装演師連盟) 短期インターンシップ「文化財保存修復研修」 (4大学 大学生8名) 25年8月19日～23日 ・古文書保存基礎講座(文化財関係者24名) 26年2月7日～8日 (2回) ・I PM普及のための研修会 (連携協力：NPO法人ミュージアムI PMサポートセンター) 「市民と共に ミュージアムI PM」ミュージアムI PM支援者育成事業 (地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業) 研修会3回 参加者107名 ○一般向け講演会等(計3回・215人) ・文化財保存交流セミナー 講演会1回 参加者25名 平成25年度九州国立博物館文化財保存交流セミナー 文化財保存と絵画資料「中国美術における梅について」(26年2月27日) ・I PM普及のための報告会(連携協力：NPO法人ミュージアムI PMサポートセンター) 平成25年度地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業 「市民と共に ミュージアムI PM」(26年2月28日) ミュージアムI PM支援者研修会修了者報告会1回 参加者74名 ・I PM普及のための講演会(連携協力：NPO法人ミュージアムI PMサポートセンター) 「市民と共に ミュージアムI PM」(25年10月12日) 平成25年度地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業 公開シンポジウム1回 参加者116名									
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
保存修理事業者を対象とした研修会									
開催回数		6回	—	—		20	22	10	7
参加者数		139人	—	—		—	—	263	280
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】									
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



古文書保存基礎講座

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化		
事業名	(4) 収蔵品の貸与		
【年度計画】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 (東京国立博物館) 1) 長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。 2) 海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する(海外交流展出品作品を含む)。			
担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長 富田 淳
【実績・成果】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 国内の博物館等117機関に1,086件の作品を貸与した。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 下関市立考古博物館、大阪府立弥生文化博物館と協力して考古資料の相互貸借を実施した。 (東京国立博物館) 1) 長崎歴史文化博物館の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。 2) 海外の美術館・博物館等6機関に51件の作品を貸与した。			
【補足事項】 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 考古資料相互貸借事業経費により、下関市立考古博物館に10件を貸与、77件を借用、大阪府立弥生文化博物館に19件を貸与、76件を借用した。借用品により当館では特集陳列「本州最西端の弥生文化－響灘と山口・綾羅木郷遺跡－」、特集陳列「弥生時代の近畿－華麗なる土器と青銅器の展開－」を開催した。 (東京国立博物館) 1) 英国のヴィクトリア・アンド・アルバート博物館で開催された特別展「中国絵画の名品 700-1900」には、当館から4件の文化財を貸与し、作品展示・展示替え・撤収・輸送随伴に延べ3名の人員を派遣し、国内輸送については他機関の作品輸送にも随伴するなど多大な協力を行った。			



ヴィクトリア・アンド・
アルバート博物館
「中国絵画の名品 700 - 1900」 図録

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
貸与件数	1,137件	—	—	経年 変化	1,104	1,315	905	1,295
うち国内の貸与件数	1,086件	—	—		913	1,155	865	1,252
うち海外の貸与件数	51件	—	—		191	160	40	43

総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)
------	----------------------

【中期計画記載事項】	
収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。	
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(4) 収蔵品の貸与								
【年度計画】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。									
担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長 鬼原俊枝						
【実績・成果】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 82機関に対し626件の収蔵品・寄託品貸与を行った。(うち海外1機関に対し3件) 収蔵品の貸与件数：353件 寄託品の貸与件数：273件 計 ：626件 ○本年度も継続してウェブサイトにて「貸出作品リスト」の公開を行った。									
【補足事項】 ・平常展示館建設中に公私立博物館・美術館からの貸与依頼に応じて、積極的に収蔵品の貸与を行っている。 ・今年度は、香川県立ミュージアムにて「いとうるわし。日本の美—京都国立博物館名品展」に特別協力を行い、国宝7件、重要文化財14件、重要美術品2件を含む、収蔵品57件を貸与した。 ・また、当館で企画した「魅惑の清朝陶磁」展を長崎歴史文化博物館に巡回し、重要文化財1件を含む62件の収蔵品を貸与した。 ・台東区立書道博物館の「清時代の書—碑学派—」展に6件、サントリー美術館の特別展「天上の舞 飛天の美」展に7件、徳川美術館の「歌仙—王朝歌人への憧れ—」展に8件、MIHO MUSEUMの「朱漆「根来」—中世に咲いた華」展に18件などの収蔵品を貸与した。 ・海外では、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館の「中国絵画名品展700—1900」展に3件を貸与した。									
 特別協力 「いとうるわし。日本の美—京都国立博物館名品展」									
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
貸与件数		626件	—	—	年 変 化	428	297	429	304
うち国内の貸与件数		623件	—	—		400	281	426	301
うち海外の貸与件数		3件	—	—		28	16	3	3
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(4) 収蔵品の貸与								
【年度計画】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。									
担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長兼列品室長 岩田茂樹						
【実績・成果】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 収蔵品と寄託品を、国内外合わせて35の機関に、計135件貸し出した。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 岩手県立博物館、平泉町（平泉文化遺産センター）の計2館との間で相互貸借事業を実施した。									
【補足事項】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 貸与申請のあったもののうち、作品の保存状態に問題がないものについては、展示期間や会場の温湿度の設定、また警備体制などを調査したうえで、慎重に、しかし可能な限りその全てに 대응するように対処した。結果、100件を超える貸与件数となり、公私立等の博物館の展示の充実に寄与しえたと考える。 1) ○貸出先35件の内訳 ・国立5件 公立19件 私立11件 海外0件 ○貸与作品135件の内訳 ・国宝9件(収蔵品2件・寄託品7件)、重要文化財39件(収蔵品10件・寄託品29件)、その他87件(収蔵品46件・寄託品41件) ・収蔵品 58件(絵画18件・彫刻4件・書跡3件・工芸26件・考古5件・その他2件) ・寄託品 77件(絵画48件・彫刻10件・書跡5件・工芸10件・考古4件) (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 相互貸借事業における貸与品件数、借用品件数は以下のとおりである。 ・岩手県立博物館（貸与品：1件、借用品：20件） ・平泉町(平泉文化遺産センター)（貸与品：1件、借用品：15件）									
									
貸与品：国宝 牛皮華鬘 登号 一面（収蔵品）									
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	経年 変化	21	22	23	24
貸与件数		135件	—	—		108	159	118	102
うち国内の貸与件数		135件	—	—		107	145	113	100
うち海外の貸与件数		0件	—	—		1	14	5	2
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(4) 収蔵品の貸与								
【年度計画】 (九州国立博物館) 1) 収蔵品の充実に努め、貸与の体制を整備する。									
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長 富坂 賢						
【実績・成果】 (九州国立博物館) 1) 国内 31機関・海外 1機関に収蔵品及び寄託品を貸与した。 (機関数は延べ数。東京国立博物館からの長期管理換品を含む。文化庁・当館・ベトナム国立歴史博物館の共催になる平成25年度文化庁主催海外展「日本文化」展は、海外機関への貸与として計上した。)									
【補足事項】 (九州国立博物館) 1) ○国内の貸与先機関は、下記のとおりである。 ・国及び国立博物館 文化庁、東京国立博物館、京都国立博物館 ・地方公共団体及び公立博物館・美術館等 (福岡県内) 九州歴史資料館、甘木市歴史資料館、伊都国歴史博物館、小郡市埋蔵文化財センター、北九州市立小倉城庭園、太宰府市文化ふれあい館、北九州市立自然史・歴史博物館、求菩提資料館、福岡市博物館、大宰府展示館 (福岡県外) 岩手県立美術館、岡山県立博物館、島根県立石見美術館、佐賀県立名護屋城博物館、吉野ヶ里歴史公園、長崎歴史文化博物館、鹿児島県歴史資料センター黎明館、仙台市博物館、大阪市立美術館、下関市立考古博物館、八代市立博物館未来の森ミュージアム ・私立博物館・美術館及び私立団体 MIHO MUSEUM、大和文華館 ○海外の貸与先機関は、下記のとおりである。 ベトナム国立歴史博物館									
 花鳥蒔絵螺鈿聖龕 (仙台市博物館「伊達政宗の夢－慶長遣欧使節と南蛮文化－」展出品)									
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	経年 変化	21	22	23	24
貸与件数		143 件	—	—		89	165	119	113
うち国内の貸与件数		117 件	—	—		88	131	118	105
うち海外の貸与件数		26件	—	—		1	34	1	8
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進							
【年度計画】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 (東京国立博物館) 1) 新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。								
担当部課	学芸研究部 総務部		事業責任者	部長 伊藤 嘉章 部長 栗原 祐司				
【実績・成果】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、114件の援助・助言を行った。 ・文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力(16件) ・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言(40件) ・講演会やセミナー等における講演等での協力(7件) ・作品の展示・保存環境についての調査・指導(30件) ・文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)(5件) 東日本大震災において被災した博物館など3施設に対して、文化財保全のための救援活動を実施した。 ・博物館等の管理運営にかかわる助言(16件) (東京国立博物館) 1) 新規貸与館5館に対する環境調査を実施し、東京文化財研究所と協力して指導助言を行った。 (4館共通) 1) ○文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力 ・文化庁美術工芸品買取鑑査会議出席 ・東京都文化財保護審議会出席 ・高知県新資料館建設会議出席 他 ○公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言 ・古代オリエント博物館 特別展「ユーフラテス」開催に関する助言 ・静嘉堂文庫美術館 「松浦武四郎コレクション」の展示についての助言 ・ルーブル美術館 来館者数の推移と傾向についての助言 他 ○講演会やセミナー等における講演等での協力 ・東京大学附属図書館 特別授業「未来の本の未来」講師 ・NPO法人文化財保存支援機構 文化財保存修復専門家養成実践セミナー講師 他 ○作品の展示・保存環境についての調査・指導 ・福井県立歴史博物館、岐阜県立美術館、佐倉市教育委員会、中国成都博物院、他 ○文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援) ・レスキュー活動の対象となった施設は、双葉町歴史民俗資料館、富岡町歴史民俗資料館、陸前高田市博物館の3館。 (東京国立博物館) 1) 環境調査を実施した新規貸与館は、福井県立歴史博物館、練馬区立美術館、北九州市立小倉城庭園など5館。								

福島県双葉町歴史民俗資料館における
文化財レスキュー活動

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	114件	-	-		139	84	126	85
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進							
【年度計画】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。								
担当部課	学芸部 総務課	事業責任者	部長 村上 隆 課長 植田義雄					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、43件の援助・助言を行った。 ・文化財の展示、修理にかかる指導助言 (9件) ・文化財の調査に関する指導助言 (11件) ・講演会、セミナー等における講演等での協力 (8件) ・地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力 (15件)								
【補足事項】 ○文化財の展示、修理にかかる指導助言 ・香川県立ミュージアム 名品展示・撤収作業の指導 他 ○文化財の調査にかかる指導助言 ・野崎家塩業歴史館 所蔵品調査の指導 ・大津市教育委員会 大津祭曳山祭総合調査の指導 他 ○講演会、セミナー等における講演等での協力 ・国際仏教学大学院大学 公開研究会に参加 他 ○地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力 ・大田市 石見銀山遺跡調査活用委員会に出席し助言 ・佐渡市 佐渡金銀山調査指導委員会に出席し助言 ・滋賀県 滋賀県文化財保護審議会に出席し助言 他								
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	21	22	23	24
公私立博物館・美術館への援助・助言件数		43件	—	—	114	123	91	65
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進								
【年度計画】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 (奈良国立博物館) 1) 石川県立美術館開館30周年記念「国宝 薬師寺展」(主催：国宝薬師寺展金沢開催委員会、北國新聞社、石川県立美術館、会場：石川県立美術館、会期：4月26日～6月23日)に学術協力する。 2) 「法隆寺展(仮称)」(主催：法隆寺・読売新聞社＝予定、会場：福岡市美術館・静岡市立美術館・岡崎市美術館＝予定)に向けた調査研究を行う。									
担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長 野尻 忠						
【実績・成果】 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対する援助・助言は、総計71件を実施した。 ・文化財の展示にかかる援助と助言(18件) ・文化財の調査、保存、修理にかかる援助と助言(11件) ・講演会やセミナー等における講演等での協力(9件) ・文化庁や地方公共団体、その他各種団体等の文化財関係事業への協力(27件) ・博物館等の運営にかかわる援助と助言(6件) (奈良国立博物館) 1) 石川県立美術館で開催の特別展「国宝 薬師寺展」(主催：同展実行委員会、会期：25年4月26日～6月23日)への学術協力として、同展への助言と輸送から陳列までの助力と助言を実施した。 2) 平成26年度に開催の「法隆寺展—聖徳太子と平和への祈り」では、企画立案の段階から積極的に助言し、調査等にも同行した。									
【補足事項】 (4館共通) 1) ○文化財の展示にかかる援助と助言 ・最上義光歴史館(山形市)開催の特別展「重要文化財 光明寺本『遊行上人絵』」(25年9月14日～11月10日)の展示内容への助言、陳列作業の指導 ・サントリー美術館(東京都港区)開催「天上の舞 飛天の美」展(25年11月23日～26年1月13日)の展示企画への助言、陳列作業の指導 他 ○文化財の調査、保存、修理にかかる援助と助言 ・橿原考古学研究所附属博物館(奈良県橿原市)において、当館より貸与した文化財について助言 ・土佐山内家宝物資料館(高知市)における山内家文書料紙の調査に助言 他 ○講演会やセミナー等における講演等での協力 ・「正倉院フォーラム2013大阪」での講演 ・法隆寺夏季大学での講演 他 ○文化庁や地方公共団体、その他各種団体等の文化財関係事業への協力 ・文化庁 文化審議会専門委員(文化財分科会) ・奈良県教育委員会 奈良県文化財保護審議会委員 他 ○博物館等の運営にかかわる援助と助言 ・公益財団法人松柏美術館 ・公益財団法人大和文華館 他 (奈良国立博物館) 1) 「国宝 薬師寺展」では、出陳品の集荷と陳列に当館研究員を各4名派遣し、撤収と返却にも各4名を派遣した。 2) 「法隆寺展—聖徳太子と平和への祈り」では、出陳交渉に研究員1名、文化財撮影作業にカメラマンと研究員の計3名、文化財調査に研究員3名、展示品集荷に研究員3名を派遣したほか、折に触れて企画内容に助言するなど、学術協力として相応しい活動を実施した。									
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
公私立博物館・美術館への援助・助言件数		71件	—	—		25	35	98	67
総合評価	S ① B C F(S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



「国宝 薬師寺展」での作業風景

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進								
【年度計画】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 (九州国立博物館) 1) 地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。 2) 地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員・ボランティアのための I P M(総合的有害生物管理)に関する専門講座を開催する。									
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 谷 豊信						
(4館共通) 1) 公私立博物館等で開催された研究集会及び講演会において指導・助言を行った。(64件) ・文化財の調査に係る助言(17件) ・文化財の保存修理にかかる援助、助言(18件) ・作品の展示及び運営等についての指導、助言(26件) ・講演会、セミナー等における講演(2件) ・福島文化財レスキュー事業(福島県内被災文化財等救援事業)(1件) (九州国立博物館) 1) 「古文書保存基礎講座」を実施した。 2) 文化財関係者及び市民等に向けての研修会「ミュージアム I P M支援者研修」基礎編・技術編・実践編を実施した。									
【補足事項】 (4館共通) 1) ○文化財の調査に係る助言 ・鳥取県立博物館所蔵の絵画の調査への助言 等 ○文化財の保存修理にかかる援助、助言 ・臼杵市所蔵文化財の保存についての指導・助言 等 ○作品の展示及び運営等についての指導、助言 ・体験型展示室のあり方について助言 ・第60回日本伝統工芸展運営委員会 等 ○福島文化財レスキュー事業(福島県内被災文化財等救援事業) ・東日本大震災で被災した博物館等施設にて実施された文化財レスキュー事業に、学芸部職員延べ1人を派遣した。 作業従事の延べ日数は3日 (九州国立博物館) 1) 「古文書保存基礎講座」(第8回) (文化財関係者 24 名) 26 年 2 月 7 日～8 日 (2 回) 2) 「ミュージアム I P M支援者研修」 主催:「市民と共に ミュージアム I P M」実行委員会 ミュージアム I P M支援者研修(基礎編)・(技術編)・(実践編) 各1実施 参加総数107名									
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	経年 変化	21	22	23	24
公私立博物館・美術館への援助・助言件数		64件	—	—		39	77	97	109
総合評価	S ㊤ B C F(S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】									
公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					



「古文書保存基礎講座」
(寒糊吹き風景)